

中国株式市場の下落と意識されやすい下値

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

31日の中国株式市場は急落し、代表的な株価指数である上海総合指数は、前週末比192.94ポイント(6.74%)安の2,667.75となりました。上海総合指数は年初から今月4日まで90%を超える上昇となっていました。中国政府による金融引き締め観測などから中国景気の先行き不透明感が高まり、足元では下落基調を強める展開となっています。また、7月の新規銀行融資金額が前年比で大きく落ち込んだことに加え、8月の銀行融資金額も減少するとの見方が広がっており、銀行融資減少による株式市場への資金流入減少(=需給悪化)懸念につながっていることも株式相場の押し下げ要因となっているようです。

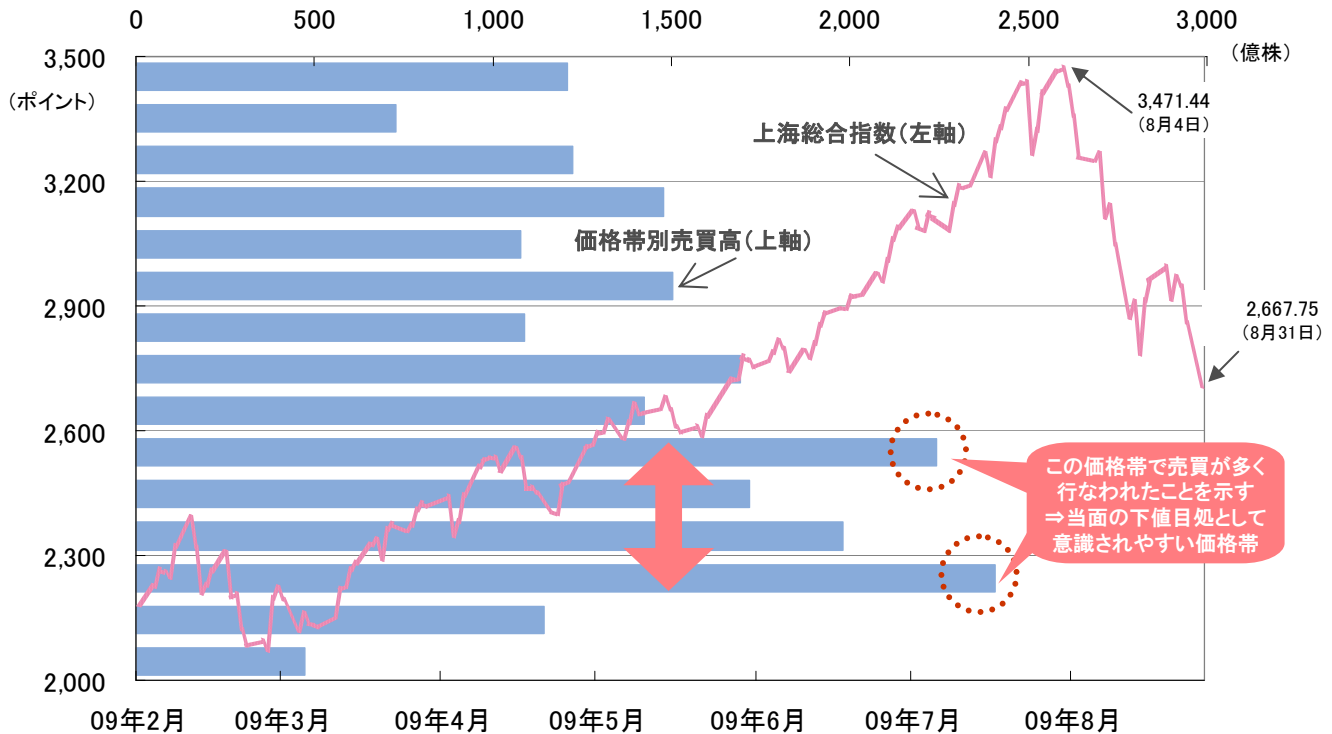
一方、中国の7月の経済指標は市場予想を下回ったものの、中国の景気回復基調が継続していることを示す内容であったことには注目すべきだと思われます。また、巨額の景気対策を行ってきた中国政府が景気回復を阻害するような過度な金融引き締め政策を行なうとは考えにくく、市場が懸念するほどの引き締めではないことが明らかになるようであれば、株式市場は徐々に落ち着きを取り戻すものと考えられます。

今後の株式相場の動きを予想することは大変難しいことですが、市場参加者が注目する下値をあらわすとされている下図の上海総合指数とその価格帯別売買動向の推移が一つの参考になると思われます。

⇒次ページへ続く

上海総合指数と価格帯別売買高

期間:2009年2月6日~2009年8月31日



この価格帯で売買が多く行なわれたことを示す
⇒当面の下値目処として意識されやすい価格帯

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

価格帯別売買高とは、一定期間の売買高を「株価の価格帯」ごとに累積したもので、どのくらいの株価でどのくらい売買された(出来高があった)のかが分かる指標です。

出来高の多い価格帯は、例えば、買った投資家にとっては「買い値」として意識されやすく、その「買い値」よりも株価が下落した場合には、「買い値まで戻ったら売りたい」という価格になりやすいといえます。反対に、現在の上海総合指数のように、出来高の多い価格帯が現在の株価より下に位置している場合は、その価格帯まで株価が下落したときに、「前回この価格帯で買って利益を出すことができた」、「そこまで下がったらまた買ってみよう」と考える投資家が、その価格帯に近づくと買い直す傾向がみられることから、株価が下げ止まりやすい「下値抵抗」帯として意識されるようです。

株価は様々な要因で動くことから、価格帯別売買高だけでその動きを説明できるものではありません。しかし、多くの投資家が意識するという「価格」から、足元の動きを見ることは一考する余地があると思われれます。